

全国学力・学習状況調査の結果公表！

4月19日（火）に6年生を対象に行われた「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果が、7月下旬に文部科学省から公表されました。本調査は「子どもたちの学力・学習状況を把握して、今後の授業や生活習慣の改善に役立てること」を目的としています。そこで、本校の結果とその分析および今後の取組について紹介します。なお、本調査によって測ることができるのは、あくまでも「学力」の特定の一部、学校の教育活動の一側面であることは、ご承知おきください。今回の調査結果から見てきた成果や課題を、学校・家庭・地域で共有しながら、今後の教育活動に活かしていきたいと考えています。



教科に関する調査の結果より

教科の平均正答率（％）

	国語	算数	理科
本校	80	71	75
三重県	65	62	63
全国	65.6	63.2	63.3

各教科の平均正答率は、国語・算数・理科のすべての教科で、三重県および全国の平均を上回っています。このことは、昼生小学校がこれまで取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善や、少人数ならではのきめ細かな学習指導などの成果が現われていると考えられます。また、問題への無回答率も県や全国にくらべて低く、最後まであきらめずに問題に取り組もうとする子どもたちの姿勢がうかがえます。

各教科の領域別の平均正答率（％）

国語	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語の特徴 や使い方に 関する事項	我が国の 言語文化に 関する事項
本校	80.0	80.0	67.5	86.0	100.0
三重県	64.2	46.6	64.7	68.7	79.6
全国	66.2	48.5	66.6	69.0	77.9

では、各教科の結果をもう少し詳しく見てみましょう。左の表は、国語の出題内容を系統的に分類した領域別に分けて、平均正答率を示したものです。

「読むこと」を除く4つの領域では、県や全国の結果よりも明らかに高い結果でした。特に、正しい漢字を答えるなどの、知識・技能を問われる問題の正答率が高かったです。また、「書くこと」の領域でも、これまで本校の子どもたちの課題としてあがることの多かった「条件に合わせて書く」設問がよくできていて、子どもたちの記述する力もついてきているとみられます。

しかし、「読むこと」の領域では、他の領域にくらべると誤答が目立ちました。問題文に「適切

なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。」とある設問では、選択肢の中から「明らかな正解」は選べるものの、「2番目の正解」を適切に取捨選択できていない人が多かったです。また、「文章の に入る内容として最も適切なものを選ぶ」問題では、書き手の意図を反映した適切な表現を選択できていませんでした。これらのことから、国語における本校の子どもたちの課題として、単に「文章の内容を理解する力」としての「読解力」だけではなく、「目的や場面などに応じて的確に内容を読み取り、その内容を利用・熟考する力」としての「読解力」の向上があげられます。

算 数	数と計算	図 形	変化と関係	データと活用
本 校	80.0	80.0	52.5	73.3
三重県	68.8	62.8	51.0	66.9
全 国	69.8	64.0	51.3	68.7

次に、算数の領域別の平均正答率を見てみましょう。

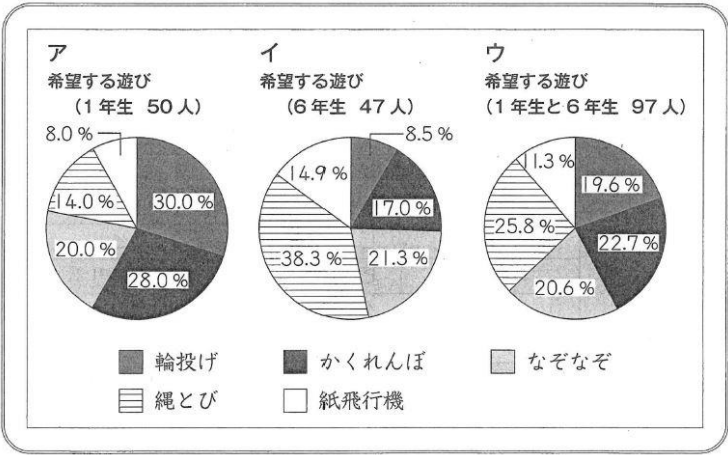
算数においても、全ての領域で県や全国の平均正答率を上回っています。

特に、それぞれの領域に含まれる思考・判断・表現力を問う設問では、すべての問題で県・全国の平均正答率を超えており、本校の子どもたちの「数学的な思考力」が育っていると考えられます。

一方で、「 1050×4 を計算する」「14と21の最小公倍数」を求めるといった単純な計算問題や、「オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000mLには、果汁が何mL入っていますか。」といった割合の計算問題で、県や全国の平均正答率を下回っています。また、下記のような「目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取る」設問でも、県や全国の平均正答率を下回っていました。これらのことから、算数における本校の子どもたちの課題として、「計算力」と「図表から必要な情報を読み取る力」の向上があげられます。

3(3) まなみさんたちは、まず、1年生といっしょにできる5つの遊びを考えました。次に、1年生と6年生にアンケート調査を行い、5つの遊びの中から希望する遊びを、1人に1つずつ選んでもらいました。

アンケート調査の結果は、右のようなグラフになりました。



まなみさんは、交流会の遊びを次のように決めようとかんがえました。

【まなみさんの考え】

1年生と6年生が希望する遊びの割合を見て、その割合がいちばん大きい遊びに決める
とよいと思います。

【まなみさんの考え】をもとにすると、どのグラフを見ればよいですか。また、どの遊びに決
まりますか。グラフを上のアからウまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。
また、遊びを下の5つの中から1つ選んで、書きましょう。

輪投げ	かくれんぼ	なぞなぞ	縄とび	紙飛行機
-----	-------	------	-----	------

理 科	エネルギー	粒 子	生 命	地 球
本 校	72.5	70.0	84.0	72.0
三重県	51.1	59.1	74.6	63.2
全 国	51.6	60.4	75.0	64.6

最後に、理科の領域別の平均正答率を見てみましょう。

理科においても、全ての領域で県や全国の平均正答率を上回っています。

設問ごとに見ても、ほとんどの問題で県や全国の平均正答率を上回っています。特に、それぞれの領域に含まれる思考・判断・表現力を問う問題では、ほぼすべての問題で県・全国の平均正答率を超えており、本校の子どもたちの「理科的な思考力」が育ってきていると考えられます。

しかし、「粒子」の領域において、「鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したかを書く」問題と、「水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ」問題において、県や全国の平均正答率をやや下回りました。特に、後者の問題では、水・砂糖水・食塩水それぞれの「こおり始めた温度」「すべてこおった温度」の結果の表から、【結果】の正しい記述と、設定された【問題】に対する正しいまとめを選択する必要がありますが、算数と同様に「図表から必要な情報を読み取る力」の向上に加えて、「条件に合わせて的確に判断・表現する力」の向上が、理科における本校の子どもたちの課題としてあげられます。

児童質問紙調査の結果より

児童質問紙調査は、子どもたちの生活や学習の様子などをアンケート形式で問う調査です。生活習慣等に関すること、豊かな心の育成に関すること、学習環境や授業等の教育活動に関することへの設問があります。以下に本校の結果の一部を示し、特徴をまとめてみました。

※ 数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合の合計(%)です。

【基本的生活習慣等に関すること】

質 問 項 目	本 校	三重県	全 国
朝食を毎日食べていますか	80.0	94.3	94.4
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	60.0	80.7	81.5
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	80.0	90.5	90.4
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか * () は持っていないと回答した割合	70.0 (10.0)	68.9 (12.7)	71.5 (11.4)
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（スマホ等を使ったゲームも含む）をしますか * 3時間以上の回答	70.0	33.1	30.7
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマホ等でSNSや動画視聴などをしますか（学習やゲームをする時間は除く） * 3時間以上の回答	40.0	21.3	19.7

朝ごはんを毎日食べる習慣が定着していない児童がいます。朝食を食べないと、活動に必要なエネルギーが不足して、やる気がなくてボーっとしたりイライラしたりする原因になってしまいます。朝ごはんはしっかり食べましょう。また、毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童の割合が、県・全国に比べ大きく下回っています。生活リズムを整えるよう心がけましょう。特に気になるのが、平日にゲームやSNS・動画視聴などを、それぞれ1日3時間以上していると回答した児童の割合が、県・全国の2倍にものぼることです。学校から帰ると家ではゲームやネットばかりという児童もいかなない結果です。地区集会や学校だより・保健だより等でこれまでもお伝えしてきましたが、家庭でのスマホやネットの使い方の見直しを、よろしくお願いします。

【自己有用感、達成感、挑戦心、社会への関心等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	70.0	77.9	79.3
将来の夢や目標を持っていますか	90.0	78.3	79.8
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	90.0	87.9	87.2
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	90.0	72.8	72.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100	97.1	96.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100	94.9	95.1
今住んでいる地域の行事に参加していますか	80.0	58.3	52.7
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	40.0	50.2	51.3

いじめを否定する児童の割合と人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が、それぞれ100%でした。その気持ちを、これからも持ち続けていて欲しいと思います。また、将来の夢や目標を持っている児童の割合や、自分で決めたことをやり遂げようと努力する児童・失敗を恐れず挑戦する児童の割合は、県・全国と比べて上回っています。前向きに頑張ろうという気持ちが大事ですね。やや自己肯定感が低い人もいますが、もっと自分に自信を持っても良いと思います。一方、保護者・地域の皆様のご協力により、地域行事へ参加している児童の割合は、県・全国に比べて大きく上回っていますが、地域や社会をよくするために自分にできることを考える児童の割合は、県・全国に比べて下回っています。行事に参加するだけでなく、昼生という地域社会の一員としての自分について、意識をしていくことも大切です。

【学習習慣、学習環境等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	40.0	69.5	71.1
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	90.0	56.5	59.4
読書は好きですか	50.0	72.5	73.1
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間読書をしますか。 *30分以上の回答	60.0	34.0	36.4

家で学校の宿題等の勉強はしているが、計画的に予習・復習などの自主学習をすすめている児童は少ないという結果になっています。自分の苦手を克服したり、興味のあることを追求したり、これまでの学習を整理したりする時間をつくって下さい。また、授業以外での読書を1日30分以上している児童の割合は、県・全国にくらべて高いですが、「読書が好き」という児童の割合は、県・全国よりも低いという結果でした。ぜひ、良い本に出合って、読書の面白さを実感して欲しいものです。

今後の取組について

各教科の調査結果から見えてきた本校児童の課題は、大きく「基礎・基本の定着」と「目的や場面・条件に応じて必要な情報を的確に読み取り、整理して活用する力の向上」にまとめられます。本校が取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善や、少人数ならではのきめ細かな学習指導などは継続しつつ、「基礎・基本の定着」のために、補充学習・HGT・すきま時間やeライブラリー等を活用した反復学習を充実させたり、「読み取る力、整理し活用する力の向上」のために、読書活動・作文指導の充実、必要な部分や大切な言葉に線を引いたり印をつけたりする習慣づけ、問題文を読んで書かれていることを絵に描いたり図式化する活動などに取り組んでいきます。ご家庭におかれましても、家庭学習(宿題+自主学習)の習慣や基本的な生活習慣を身につけさせていただきまともに、家族の時間を確保していただき、子どもの良いところを積極的にほめたり困難や失敗に面したときには励ましたりしていただきますようお願いいたします。

4年生と5年生を対象に実施された「令和4年度 第1回 みえスタディ・チェック」の結果につきましても、あらためてお知らせいたします。